

# 第1回 第5次加西市総合計画検討委員会 会議録

日時：平成22年5月28日（金）

19：00～20：30

場所：健康福祉会館 2階研修室

## 【次第】

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 総合計画策定 説明
4. 委員会の運営・基本構想 説明
5. 基本構想 グループ討議
6. 基本構想 シート記入
7. 閉会

## 【資料】

資料1：第1回 第5次加西市総合計画検討委員会

資料2：第5次加西市総合計画検討委員会 座席表

第5次加西市総合計画検討委員会委員名簿

資料3：あなたが創る加西の未来予想図 ー第5次加西市総合計画ー

資料4：委員会運営・基本構想説明資料

資料5：第5次加西市総合計画の骨子

資料6：政策と施策の体系図（案）

資料7：第1回検討委員会ワークシート

## 【会議録】

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

市長：みなさん、こんばんは。加西市長の中川です。本日はお忙しい中、加西市総合計画の検討委員会にご出席いただきありがとうございます。また、快く委員をお引き受けいただきまして、感謝申し上げます。わが国の社会経済は、少子高齢化、税収の減少、グローバル化の進展、雇用形態、ライフスタイルの多様化、価値観の多様化など、様々な環境の変化の中で進んでいます。また、地球温暖化、環境問題も深刻になっています。今から 10

年前の平成12年に第4次総合計画を策定し、今年度でその役割を終えます。現在、様々な環境変化の中、向こう10年を見据えて第5次総合計画を策定しております。市長になって丸5年経過し、市の借金は21%削減をしましたが、理想から考えると、まだ達成が遅いと考えています。一昨年イオンが新店し、これからコーナンの参入、三洋の新しい工場の稼働などが予定されています。市内で働いて、安全、快適に暮らせる、なおかつ、子育てできる環境づくりを行い、魅力的なまちづくりをしていきたいと考えています。こうした環境整備をしていかなければ、人口減少に歯止めをかけられません。また、産業立地だけでなく、人材を育成していかなければいけないということで、根底となる教育、少子化対策、子どもの出生を増加することが大事です。総合計画の策定は、本日お集まりいただいた24名の検討委員の皆様とは別に、公募市民によるワークショップを2月から続けており、市民参画のグループ討議を中心として、加西の現状と課題を検討しています。ワークショップを縦糸とすれば、検討委員会は横糸です。その縦糸と横糸の織り成す所、兵庫県立大学の新沢先生等、有識者の裏打ちもしていきながら、よりよいものにまとめていきたいと考えています。そういう作業を続けていくことで、より広い視野で多方面からの検討をいただいで、しっかりと市民の意見を盛り込んでいきたいと思ひます。最後になりますか、検討委員の皆様には、幅広い知見から、忌憚のないご意見をいただきたく思ひます。活力に満ちた将来の加西市の計画になるよう期待しているところでございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。今日は誠にありがとうございます。

### 3. 総合計画策定 説明

事務局：資料3に基づき、総合計画策定の必要性について説明をした。

### 4. 委員会の運営・基本構想 説明

事務局：資料4、資料5、資料6に基づき、委員会の運営について、基本構想骨子について説明をした。

#### 【質疑応答】

委員：審議会のメンバーはどのような人でしょうか。

事務局：第4次総合計画134ページに前回の審議会メンバーが記載されています。市民代表、加西市区長会、学識経験者、市議会、関連団体等から選出しています。今回のメンバーについては、まだ決まっています。

## 5. 基本構想 グループ討議

### 【グループ1の主な意見】

- ・今の説明ではわかりにくい。
- ・政治の逆転があり、政党でみるのもこれからは違う。
- ・自然環境、災害の面でも変わってくるのではないか。
- ・子どもが少ない、老人が多いということは分かるが、方向性が見えない。
- ・10年先がはっきりわからないのに、30年先は考えられない。
- ・地元でUターンして帰ってくる人が減っている。
- ・戻るときに農地から住宅に転用したいができず、市外で家を建ててから許可が下りるといことが多かったのではないか。下水、水道の話もあるとは思いますが、融通がきかないかと疑問に思う。
- ・学校の統廃合の話もあるが、富合小学校は是非残していただきたい。富合と九会が合併してしまえば、富合はゴーストタウンになってしまう。
- ・わっしょいスクールなど高齢者の生きがいとするイベントもあり、地域の特色があると思うので、教育の面で考えると今の教育体制を維持した方が良いと思う。
- ・土地の許可が下りないから他のまちで過ごそうとなってしまう。
- ・統廃合の問題は行政の支所も同様であり、どこに行くのも車を使わなければいけない。高齢者にやさしいまちといいながらそれではやさしくないのではないか。
- ・30年後よりもこれからどうなるか、我々はどうなりたいかと思ったほうが良い。
- ・多加野地区では、JA、銀行が今まで身近にあったところがなくなり住みにくくなって、住みたいと思う人がいないというのもしかたがたない。
- ・魅力あるまちにするにはどうするか考えた方が良い。
- ・何ができる、どんな人がいる、魅力あるまちの原点を考え直さないといけない。
- ・一極集中型になっているのではないか。ジャスコがきたらそこに人が流れるといったように人のふんどしで相撲を取っている印象をうける。
- ・自分達で考えて、作っていき、まちをもっと分散させないと商工会、議員におべっかを使っていたところだけが得をするのではないか。
- ・大きな店舗を作るときは、もっと市場調査をするべき。大きなものができるると他からも人がきて、まちの活性化につながるが、自営業者はやっていけなく、シャッター通りになる。
- ・大型店舗に、車で行くとなれば、大量に買って毎日買いものにいく必要がなくなる。昔は色々回って買い物をしたが、時代の流れが変わって自営業者は難しいと思う。
- ・ここでダメなら他で店を出すなど自営業者も努力している。自分でもっと努力をしなければならぬ。
- ・買いものをしにきた人が止まれる駐車場を作るなども、1つだと思う。

- ・小学校を廃校にはしたくない。入学生が 10 人ではかわいそうだから合併になってしまうのだと思うが、統合になると遠くなり、小学校がなくなってしまうというのは、その地区が死ぬことだと思う。
- ・何かやるなら、その分フォローが必要。
- ・日吉と統合すれば、学校自体は建てなくてもいいのでは。その浮いたお金で、バスなどで送迎してあげてほしい。
- ・世代の違う人とのふれあいは大事だと思います。年をとってくと交通も危ない。
- ・子どもの放課後の見守り、小学生、幼稚園児をみる人が少なくて困っている。加西はボランティア精神がなっていない。もっと高齢者が住みやすいまちをつくらしてほしい。
- ・何かをやるなら規制をなくせば良いと思う。しばられているとボランティアなどやっつけられない。
- ・子どもは知らない人でもあいさつをする。逆に子どもの人数が少ないからこそ、地域との密着もある。ふれあい、伝統工芸、老人会などでも子どもとは密着している。
- ・加西市は水が高すぎ。機械を導入して、綺麗な水を作るのは良いが、そのせいで、生物も分離していつてしまっている。
- ・水がないのであれば、ためる方法を考える必要があり、雨水をためて、雑用水として使うことも節約のひとつだと思う。
- ・水はライフラインの 1 つで生活になくってはならないものであることから、市が補助して水を大事にしていくことが必要。
- ・水が安くなれば、加西市にも人が集まってくるかもしれない。
- ・人口減少、子どもの数も減少、農地の規制緩和の問題もあるが、働く場ということも大事。働くところがあって家もある。農業、サービス、製造であれ、受け入れられる場所を、加西でお金をもうけて暮らしていける場所を作ることが大事。
- ・三洋電機は 1,000 人雇用と聞いているが、定住にはつながらないのでは。
- ・最近働く人も中国の方が多く、安いところへ流れている。
- ・加西市はもっと違う視点で働く場所や商業、サービスを考えた方が良い。
- ・何が原点、何が高齢者にやさしいまちか。何をフォローしなくてはいけないかを考えなくてはいけない。
- ・加東市は各家にケーブルテレビがずっと流れており、高齢者の一人暮らしでも電気を消せば、消防団が来るというように人と人のつながりがある。加西市もそういう取り組みがあってもよいのではないか。
- ・小野市はランランバスが無料で走っている。加西市は車で回らないといけませんが、作ったとしても乗らない方もいるので難しい。
- ・私は大きなまちで暮らしていたが、またそのまちで暮らせと言われても暮らせない。子どもは外に出たいと言うが、まちの中ではバーベキューもできないし、横とのつながりも薄い。

- ・ 戻られた方を見ると良いと思う。
- ・ 役所に予算があることはない。10年前から市道予定となっているところもできていないし、身近な要望を実現するところが魅力ある行政だと思う。こういう意見を聞いて、実現していただければうれしい。
- ・ 小学校に上がるまでの子の受け入れ先もないので、19時～20時くらいで預かってくれるところがほしい。
- ・ 医療に満足できない。加西にも1つくらい専門的な病院がほしい。

### 【グループ2の主な意見】

- ・ 地域の子どもの数は減っている。
- ・ 老人会の人数が増えている。高齢者が元気。
- ・ 教育の場でも子どもの減少は話題に上っている。小野市では子どもが増えていて、その差はやはり行政の財政面の差ではないかと思う。やはり産業が必要か。
- ・ 自然体験学校へ参加する子どもも減っている。
- ・ 若者の仕事がない。自分の息子も関東に出て仕事をしているが、仕事の面で戻ってくるのは難しいと言っている。
- ・ 工場などはあるが、若者が「就きたい」仕事が無いのが問題。
- ・ やはり給料の面ではないか。
- ・ 仕事が多様化していて、それが都市部では対応しているが、地方都市で様々な職種を生み出すというのは難しい。
- ・ 小野市は医療補助が充実しているので、小野市に住んで加西市に勤めに来ている人も少なくない。
- ・ 加西市の自然環境や土地柄は悪くないように思う。
- ・ 「どうせ加西市なんか」と思っている人が多いのかもしれない。
- ・ ムラ社会の意識が残っている地域があるかもしれない。
- ・ 加西市の良い記憶が残るような子育てができれば、人口流出は止まるかもしれない。
- ・ 巨大な絵を子どもたちに描いてもらう取り組みを進めている。
- ・ 担い手が減ってきている。
- ・ 田を貸して耕作してもらっているが、それもいつまで続けてもらえるか分からない。
- ・ 地産地消が叫ばれているが、生産する力が衰退していくように思う。
- ・ 新規就農は様々なハードルがあり、まずは意識改革から始めていくことが必要だろう。
- ・ 地域ブランドの取り組みをやっているようだが、手ぬるいと感じている。
- ・ 福祉施設利用者の交通問題など、福祉の面にはもっと力を入れてほしい。

### 【グループ3の主な意見】

- ・ アイデアシートに商業に関することが入っていないのでは。

- ・30年後を考えるとあるが、20年後には団塊の世代が80代になる。大型スーパーが出店し、車社会となっている中で、和泉町では豆腐一つ買うにも車で行かなければいけない。以前は歩いて行っていた店は閉店している。
  - ・車に乗れる間はいいが20年経った時どうするのか。毎日配達してもらうようになるのか。
  - ・北条のまちなかもシャッター街になっている。30年後を考えるとであれば、気軽に出て行って歩けるまちにならなければならない。高齢者は老人ホームに入れということになってしまう。
  - ・古坂2丁目は、昔からある村ではないが、高齢化しており、ひとり暮らし高齢者が増加している。突然亡くなって、家族もいないような人もいる。そのような人は、病気の時など、民生委員の所に電話してくる。
  - ・80歳で子どもの所に行くといつて加西を出て行った人から連絡があり、施設に入れられたということがあった。加西にいた方が良かったと言っていた。
  - ・老老介護となっており、親の面倒を見切れない。
  - ・町内に子どもがいなくなった。私の長男が小学6年生のとき、同学年は23人で小学生は120人ほどいたが、現在は、1年生から6年生で14人となっている。
  - ・65歳以上の方がすごく増えた。買物をする場所もなく、お茶を飲む場所もない。家で一人でテレビを見ている。そして、ある日突然亡くなる。
  - ・民生委員は、家族と同居している人はあまり干渉しない。同居していても家族の中で孤立している人もいる。
  - ・昔が良いというわけではないが、2世帯同居など、思いやり、やさしさが欠けている。
  - ・人づくりについて、人材バンクを作ってほしい。市外で定年を迎えた人は、最後はふるさとで暮らしたいという人がいる。また、市内にずっといる人でも地域で活躍したいと思っている人がたくさんいる。こうした人の能力を整理して登録する制度、活動するときは手弁当が良い。人材登録の名簿をつくる位お金がかからない。こうしたことで、地元に戻るきっかけになる。ずっと地元でいた人もやる気がでる。団塊の世代は第2の人生に迷っている。
  - ・団塊の世代対策というが、簡単に計画どおりにはいかない。どんな活動でも、まず飛び込んでみるのが重要。計画を立てていると進まない。
  - ・アイデアシートには加西の悪い所がたくさん出ているが良い所は探さないと出てこない。例えば、シルバーカーに乗って、ごみを拾っているおばあさんがいる。タバコの吸殻を拾っているグループがある。良い所を探していくべき。
  - ・現在の小学3年生が10年後には20歳になっている。学習支援をしっかりとっていくことが必要。
  - ・検討委員会は何をするのか。今出ている意見はワークショップと一緒にではないか。
- 今日と第2回までに基本構想を検討していただく。事務局が粗いものをつくったので、それに対して追加項目や検討事項、ご意見をいただきたい。

・目的を持ったテーマでないと意見が出せない。財政の健全化という記述があるが、6ページのまちづくりの主な課題には入っていない。

→資料6にあるが、行財政については、まちづくりの全体に関わる間接的なものなので、下から支えるようなものと捉えている。

・全体に関わるものでも、主な課題に入れてよいのではないか。「行財政運営の視点」を追加してほしい。

・農業は加西ブランド、工業はグローバルにやっている。商業は何か。加西市は物品購入等の際、1円でも安ければ市外の業者を選んでいる。市内の商業者は仕事がとれない。地元で税金を納めているのは市民。企業努力が足りないということかもしれないが、モノと人とカネがまわるようにしてほしい。

・地元の商業を確保しなければ、10年後、30年後に買物難民になってしまう。泉地区からはイオンに行けない。コンビニのような小さな店が地域にできるかもしれないが、地元業者は逃げたくても逃げられない。東京の業者は儲からなければ出ていく。今踏ん張らないと10年後も30年後もない。市場原理で安くて良いものを選ぶのもいいが、地元で経済がまわるようなシステムも必要。

・自分の能力をボランティア等で活用することで、ポイントを貯めて、買物に使える制度を行っているところもある。

・アイデアシートは細かすぎてすべて見ることは難しい。

→現在、整理している。今後、わかりやすい形でまとめていきたい。

・どのような項目でまとめていくのか。予算等は考慮するのか。

→予算の縛りがあると、意見を仕分けしなければならない。今回の総合計画では基本構想から施策、予算がつながる仕組み、やるべきこと、できることをするというのが事務局の想い。

・市の税収が増えなければならない。神戸市はバブルの時には無理をしてたたかれたが、考え方としては良かったのではないか。税収を増やすためにどうするか考えないといけない。例えば、音楽を目指す子どもにもっと市の施設を利用してもらうべき。今は施設が使えないことがある。何かやろうとする市民を支援するようにしてほしい。

・市内に大きな会社ができているが、人口は増えているのか。税収は増えているのか。そこで働いている人は市外に住んでいるのが多いと思う。

・市ももっと商売をしないといけない。民間の会社は業績が悪くなると人を切ったり、工場を減らして、赤字を減らす。しめつけと同時に投資もしている。市は赤字を削減するだけで、お金を外に出すことをしていないのではないか。

・アイデアシートには、問題点と対策があるが、効果のあるものだけすればよい。このアイデアシートの中にも効果の高いものがあるかもしれない。

→PDCAとあるが、成果指標のような目標値をどこまで盛り込むか検討している。

・効果を算定し、はっきり見極めないといけない。

- ・国からも地方でやっていかないとという流れになっている。
- ・人口が減少した時に、税金等で市民が市を支えていけるのか。三洋、イオンが来たというが、テナントは市外の業者となっている。
- ・工業はたとえ世界一のものを生産していてもパッとわからない。商業はチェーン店であればすぐに目に見える。人が集まり、にぎやか、活気がでる。工業は外に見えない。
- ・アイデアシートをうまく整理しなければならない。
- ・2つの柱があると思う。一つはボランティアなどの地域の活動、もう一つは税金を増やす方策。
- ・身近なことからやれることからやるしかない。
- ・検討委員会は3回では難しいのではないか。
- ・泥臭い指針でもいい。例えば、おせっかいなおじさん、おばさんが結婚させるような・・・仲人さんも減っている。

#### 【グループ4の主な意見】

- ・加西市の人口が減っている。減少を止めるのは難しく、限界集落などの問題もある。このまま減少が続くと、計画の運営に支障をきたすのではないか。
- ・前回の総合計画の将来人口と現在の人口は大きく食い違っている。今回の計画は、将来目標としている人口と、推計による人口、どちらを基づいて立てられるのか。
- ・人口が減少し、空き家が増えている。行事がなくなり、村もなくなるのではないか。
- ・若者が出ていって、他の市に家を建てて住んでしまう。子どもころ加西市に住んでいた世代はUターンしてまた戻ってくるかもしれないが、愛着のない孫の世代は戻ってこないのではないか。
- ・農業の採算が合わない。作っても赤字になってしまうので、ぶどうの木も切ってしまうそう。きちんと取り組まなければいけない。
- ・10年ほど前からフラワーセンターをメインにやってきたと思うが、見る人がおらず、失敗である。
- ・兵庫県は農業所得が10年間ずっとワースト10に入っている。統計を考慮に入れていない。土地を県が買ってしまい、農業ができなくなった。
- ・若い人が結婚せず、少子化が進んでいる。こうのとりの会などのイベントで、何組かは結婚している。
- ・年に1回は町内大会で、多くの町民が集まる。市の助成が少ない。
- ・婦人会ではボランティアで包帯を巻くなどしている。老人会は地域の掃除などでがんばっている。
- ・まちの中での活動は多いが、それを引き受ける役員がいない。
- ・他の市町を見ても、地域のリーダーががんばっているところは活力がある。



- ・公民館の利用率が低い。一部の人ばかり利用して、本当に必要な人は使わない。
- ・総合計画は、書面の中身より見た目のビジュアルを重視した方がよい。市民に見てもらえる工夫が必要。冊子でなくてもよい。ビデオの方が見るのではないか。
- ・総合計画を見ると、当たり前のことしか書いていない。その当たり前のこともすることができていない。
- ・計画の目標は言葉ではなく数字で表すべき。
- ・目標の結果を出すには人の力が大事。
- ・幼稚園教育に力を入れてほしい。教師が1年で移動してしまい、子どもも顔を覚えていない。
- ・八千代（現多可町）と働く場所、補助金など差がある。
- ・加西市は助け合いの精神が薄い。教育が必要。そのために人材を養成すべき。
- ・子どもを安心して預けられる保育所を作ってほしい。私立より公立校に力を入れてほしい。
- ・農業所得の評価・検証をすべき。三洋の工場の雇用数はどれくらいを予定しているのか。  
→機械化された工場なので、人を大量に雇うものではない。
- ・地域ブランドになりそうな品として、米に力を入れているが、跡継ぎがない。
- ・市の職員は削っているのか。  
→団塊の世代の退職もあり、減っている。
- ・もっと若い職員を入れるべき。
- ・サロンなど、年寄りが集まる場所を。
- ・健康増進センターで活動されていた方が、指導者になり体操を広めている。

## 6. 基本構想 シート記入

## 7. 閉会